

諸目遺跡 現地公開資料

平成24年4月14日(土)

主催：公益財団法人大阪府文化財センター

調査の経緯

今回の発掘調査は、泉佐野市立長南小学校の屋内運動場増改築工事に先立つものです。諸目遺跡は、弥生時代から中世の複合遺跡として知られており、今回の調査地点はその南東に位置しています。調査面積は約1100㎡で、平成24年2月から調査を開始し、現在も調査中です。

本日は、この度の調査で明らかになってきた、当地域の昔のようすを紹介いたします。

調査の成果

現地表面から約30cmほど運動場の盛り土を掘り下げたところに、20～40cmの厚さの中世(平安時代末～鎌倉時代、今から800～700年前)の耕作土層があり、この地層を除去すると、古墳時代から古代の遺構が姿を見せはじめました。検出した遺構には、弥生時代末～古墳時代初頭(今から1700年前)の**竪穴建物？**や、古代(今から1350～1250年前)の**掘立柱建物**のほか、多数の**ピット・土坑・溝**があります。

古墳時代の**竪穴建物？1・2**は調査区の西側で2棟検出しました。遺構の埋土には須恵器が含まれておらず、出土した土器も弥生時代末～古墳時代初頭(今から1800年前)頃のものと考えられます。

古代の**掘立柱建物**は合計5棟検出され、調査区北側に**掘立柱建物1・2・4・5**の4棟がまとまって存在しています。掘立柱建物4以外は、建物の向きが同じこともあり、ほぼ同時期に存在していたものと考えられます。掘立柱建物2には実際に当時の建物に用いられたと思われる柱が良好な状態で残っています。調査区南側にある掘立柱建物3は、掘立柱建物1・2・5と同じ方向を向いているので、これらと同時期のものと考えられます。また、調査区の南西側には多数の土坑があり、ここからは多量の古代の土師器や須恵器が出土しました。

出土遺物は、古代の土師器・須恵器を中心としています。縄文時代の石鏃や弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器・埴輪、中世の瓦器・青磁・白磁なども出土しています。このうち土坑から出土した古代の**亀形須恵器**は、全国的に見ても極めて珍しいものです。古代に使われた硯のなかに、亀の形をしたものがあり、硯の可能性も考えられるのですが、墨をためておく凹みがなく、腹部に穴を開けているなど、これまでに出土している亀形の硯にはない特徴をもっており、現在のところ用途は不明です。なお、これまでの諸目遺跡の調査でも、亀の形ではありませんが、硯は出土しています。

以上諸目遺跡は、弥生時代末～古墳時代に集落が営まれたのち、再び古代に当地域に集落が営まれ、この集落はこの地域の中心的な存在であったと考えられます。



調査位置図



出土した古代の土師器・須恵器



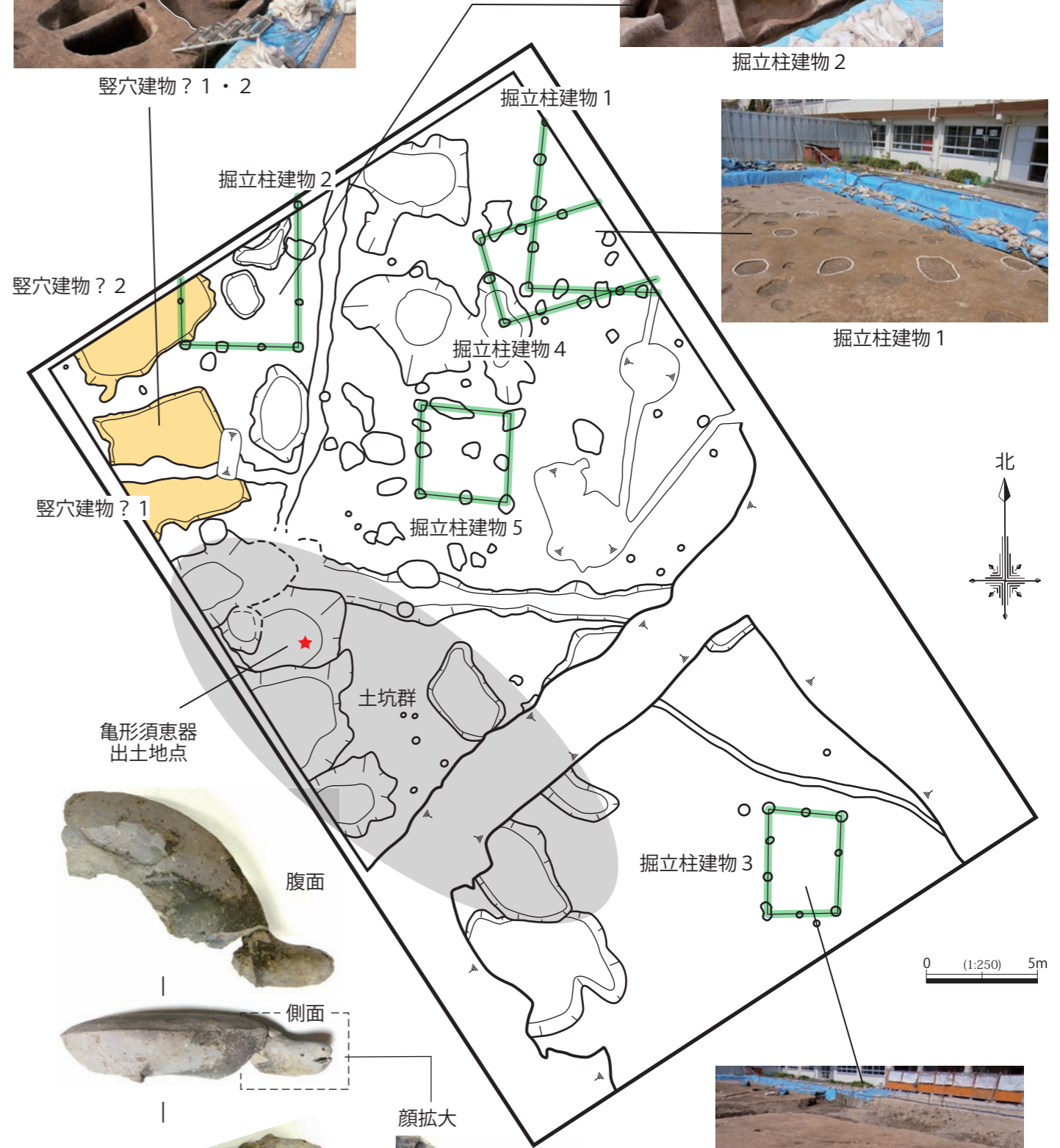
竪穴建物？1・2



掘立柱建物2



掘立柱建物1



亀形須恵器 出土地点



腹面



側面



背面

亀形須恵器

顔拡大



掘立柱建物3